

アトピー性皮膚炎の病型と難治性皮膚病変の関連に関する疫学調査

研究分担者氏名 井川 健 東京医科歯科大学皮膚科 講師
研究協力者氏名 野老翔雲 東京医科歯科大学皮膚科 助教

研究要旨 アトピー性皮膚炎(AD)は様々な遺伝的・環境的要因が複雑に絡み合って発症する疾患であるが、近年いくつかの subgroup の集まりとする考え方が報告されるようになった。代表的には血中 IgE 値により分類する方法がある。今回我々はアトピー性皮膚炎を IgE の低い内因性と IgE の高い外因性の病型に分類し、アトピー性皮膚炎でみられる皮膚症状、特に痒疹反応などを含めた難治性皮膚症状との関連を詳細に検討した。Dennie-Morgan fold、紅皮症、頸部色素沈着、結節性痒疹などの難治性皮膚症状は外因性 AD で多くみられ、今後それらの病変の発症メカニズムを検討していくことでターゲットを絞った新規治療法の開発につながっていくことが期待される。

A. 研究目的

アトピー性皮膚炎を IgE の低い内因性と IgE の高い外因性の病型に分類し、アトピー性皮膚炎でみられる皮膚症状、特に痒疹反応などを含めた難治性皮膚症状との関連を詳細に検討する。本研究にはフィラグリン遺伝子変異の有無や皮膚でのプロテアーゼ発現の有無についても含まれる。このような検討を多施設にわたって大規模に行った例はなく、今後アトピー性皮膚炎の病型と難治性皮膚病変の関連が明らかになれば、そのような病変の発症メカニズムを検討していく上で大きな利点となり、ひいては、ターゲットを絞った新規治療法の開発につながっていくことが期待される。

B. 研究方法

日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎ガイドラインの診断基準を満たし、東京医科歯科大学、浜松医科大学、京都大学、大阪大学、防衛医科大学の皮膚科外来通院

中の AD 患者のうち同意が得られたものを対象とした。AD を IgE <200 の内因性と IgE >200 の外因性の病型に分類し、痒疹等の難治性皮膚病変、血中 IgE 抗体値などの各種検査値や金属アレルギー（Ni、Co、Cr）、フィラグリン遺伝子変異の有無等について調査を行った。

C. 研究成果

対象は 168 例が登録された。内因性 AD19 例（男 5、女 14）、外因性 AD149 例（男 90、女 59）。難治性皮膚症状としては Dennie-Morgan fold、紅皮症、頸部色素沈着、結節性痒疹が外因性 AD に多くみられた。内因性 AD では金属パッチテスト陽性例が多くみられたが、逆にフィラグリン遺伝子変異例は少なかった。

D. 考察

IgE 値に基づいて内因性、外因性の病型に AD を分け

たとき、臨床症状に違いがみられた。それらの違いには金属アレルギーやフィラグリン遺伝子変異による皮膚バリア機能が関係している可能性が予測され、今後さらなる検討が必要である。

E . 結論

Dennie-Morgan fold、紅皮症、頸部色素沈着、結節性痒疹などの難治性皮膚症状は外因性 AD で多くみられた。今後それらの病変の発症メカニズムを検討していくことでターゲットを絞った新規治療法の開発につながっていくことが期待される。

G . 研究発表

1 . 論文発表

1. Inoue T, Yamaoka T, Murota H, Yokomi A, Tanemura A, Igawa K, Tani M, Katayama I. Effective Oral Psoralen Plus Ultraviolet A Therapy for Digital Ulcers with Revascularization in Systemic Sclerosis. Acta Derm Venereol. 2013 Aug 8.
2. Hanafusa T, Matsui S, Murota H, Tani M, Igawa K, Katayama I. Increased frequency of skin-infiltrating FoxP3+ regulatory T cells as a diagnostic indicator of severe atopic dermatitis from cutaneous T cell lymphoma. Clin Exp Immunol. 2013 Jun;172(3):507-12.

2 . 学会発表

なし。

H.知的財産出願・登録状況

なし。